



大阪府保険医協会 高本英司副理事長

大きなことになりました。まさに保険医運動を開始できる拠点を得ました。自前で大阪の保険医運動が、活動の拠点を得たというのはすごいことだ、だから歯科協会が、ここまで発展できたという思いがあり本当にありがたいうことだと思っていま

集いやすいみんなの会館

高本：小澤先生が言われた誰でも来やすい会館ね、大阪府民もそうやけども確かに、入ったら、なかなか、ここ偉いさんが来るようなところかな、というふうなそういう感覚を持つような建物も他にありまして、株式会社保育園もたくさんあり、みんなの会館にしたいという思いを建物に込めることは重要だと思えます。大槻：設計というのは何をやるのかというところから始まるんですね。例えば一軒の家だとしたら、家族ですね。使う人は基本的には家族がどういふ暮らしをしたいか。今はできないけどこんなことを目指しているかというふうなことも含めて、建物のなかみは決まってくるんですね。

ここで、建物の設計をしていくんですね。ですから、そういう意味で、大槻としては今回の運動団体としての保険医協会の新会館建設というのはその辺と通じるところがあるかなと思っています。募金のお話がありましたね、今の保育園でもね、その保育支援のOBの子どもたちが大人になってたくさんいるんですね。もう1960年からやってくる福祉法人なんですけど、OBや保護者、友の会みたいなものもあって、自分たちの拠点を作ろうと募金運動を熱心に行われていましたね。最近事務所を建て替えられた別の団体でも自分たちの夢の実現ということ

改修か建て替えか

小澤：今回、会館をそのまま使おうとか、いややっぱり建て直すべきとか、検討もありました。2011年3月に東日本大震災が起って、この場所柄から言うと、南海トラフ地震に対してやっぱりかなり備えもせんとか、あかんし、建設年数もだいぶ経つので、修繕していきました。耐震工事をしたり、修繕していく場合に1億6000万、2億円ぐらいかかるという見積もりを出していただいたり、な

うなところかね。とにかく効率よくするというところが基本ですね。保育園でもこちらでも、基本的にはここで使う人の話を聞いて設計をするということ、話の進め方がやはり全然違いますね。そこで働く人、使う人、来る人も一緒に何かを目指していくという前提で作られていきま

高本：僕が新会館への建て替えを決断しようと思ったのは、やっぱり保険医運動の歴史の問題があるんじゃないかという思いがあった。小澤：歯科協会でも検討しようということになって、理事会や評議員会、総会でも議題に掲げて職員のご意見をいただい



F・P空間設計舎／一級建築士 大槻博司氏

僕らはそのうちの歴史の長い歴史の一部分は担うんやけども、次のついででもらう役員の方、おられる会員の先生方がいる。僕にしてみたら将来の夢っていうのは、もっと発展するだろうと、今でも発展してきてるけどももっともっと発展する。そのための努力を惜しんだらあかん。そのための受け皿をどうするかという。発想的にはそれがまずあって、それをやるうと思ったら、補修・改修でお金を使うよりも、思い切って新たな次世代の先生方の場所を作るのが一つ。もう一つは、やっぱり会員の先生に対する信頼感の問題。修繕で行く方が持ち出しは少ないが、自分たちで活動にも限界を作ってしまうことになる。会員の先生方がやっぱりしっかりした建物で、しっかりした活動、やってほしいと考えてはるやろうし、そこに会員の先生方からの協会の信頼があるんじゃないかという思いがあった。小澤：歯科協会でも検討しようということになって、理事会や評議員会、総会でも議題に掲げて職員のご意見をいただい

募金の成功を 会員の先生方からの声を集める機会に

宇都宮：ここまでのお話を聞いて、先ほど大槻さんが言われていた保育園の例、かつての園児が成長して人の親になってですね、いわゆるOBです。OBもしくはOGその人たちが自分の育ったという自分が通っていた保育園、例えば建て直すときに募金を募らうとそこに応じても喜ばしいことだ。一つの理想的な形かなと話をしていて思いました。高本：夢にも繋がっていきませんが、4階はいわゆる書庫と資料をきちん



宇都宮先生と小澤先生

毎週金曜日 AM7:30から5分間 放送中! ON AIR 医療どっポータル ラジオ関西 AN558-FM91.1 医科協会が放送中のラジオ